

小学生 12,000 人超が市内全域生き物調査に参加しました！

～こども「いきいき」生き物調査 2014 調査結果のお知らせ～

横浜市環境科学研究所では、H26 年の夏休みに、市内の市立小学校 342 校の児童を対象に、家や学校の近くで見つけた生き物を報告してもらう市内全域調査を実施しました。158 校、12,349 名の児童から回答があり、調査結果がまとまりましたので、お知らせします。

清流にすむ美しい鳥、カワセミが市の西部で多く確認されていること、過年度調査で「人目につきやすいところに出てくるようになった可能性」が指摘されているタヌキが市内広域で確認されていることなど、生物多様性保全に資する貴重な情報を得ることができました。

1 事業名称

こども「いきいき」生き物調査 2014

2 目的

調査を通じて地域の自然や生き物への関心を高めていただくとともに、生物多様性保全に資する基礎データを取得することを目的に実施しました。

3 調査方法

市内にある市立小学校 342 校の 5 年生 31,615 名（H26 年 4 月 1 日現在）及び参加希望のあった他の学年に調査票を配布し、過去 1 年間（2013 年 9 月 1 日～2014 年 8 月 31 日）に、「家や学校の近く」（＝学区内）で見つたり、鳴き声を聞いたりした生き物について、○をつけてもらいました。

4 調査対象とした生き物

調査対象としたのは、次の 9 種類の生き物です。生き物の分類（同定）のしやすさに配慮しながら、市内の自然環境を指標すると思われるもの、外来種や減少または増加傾向にあるものなどを選定しました。

- ・ツバメの巣
- ・カワセミ
- ・アマガエル
- ・アライグマ
- ・ハクビシン
- ・つくし
- ・ノコギリクワガタ
- ・クマゼミ（の鳴き声）
- ・タヌキ

5 調査結果

学校ごとに、対象の生き物を見つけた割合（以下、確認率）を集計し、その情報をもとに GIS ソフトを用いて市内全域における確認率の高低を色の濃淡で示しました。

なお、作図にあたっては、1 校あたりの回答数が 10 名以上の 154 校のデータを使用しました。

今年の調査は、継続 2 年目となりますが、いくつかの生き物については、1980～90 年代に 3 回、小中学生らを対象としたアンケートによる分布調査が行われています。対象とする生き物が確認できたか否かを示すもので、今回の結果とは表示方法が異なりますが、当時の状況を知る貴重な資料として比較を行いました。



教えて！あなたが見つけた生き物たち 2014

学校名： _____ 小学校 年 組

この1年間（去年の9月1日～今年の8月31日）に、家や学校の近くでどんな生き物を見ましたか？ 見つけたものを全部に○をつけてみよう！

ツバメの巣 今年暮おれた巣を見つけた時だけ数えてね。 数 〇 〇 〇 〇	つくし 数で区に目立たないはえていたかな？数べられる種類だよ。 数 〇 〇 〇 〇	カワセミ 川や池に飛び込んで飛をつままえるよ。 数 〇 〇 〇 〇
ノコギリクワガタ オスの角（大あご）にはオスがオスだけのついでに。	アマガエル 3cmくらいのおたかさん、体は灰色か緑のたかさんもあるよ。	クマゼミ（の鳴き声） シヤァシヤァと大きな音で鳴いて、はてーと響くよ。
アライグマ しっぽは黒いよ。	タヌキ しっぽにしましまはないよ。	ハクビシン しっぽは黒いよ。

みんなはどれくらい見つけたかな？
家や学校がある場所によって、見つける生き物の種類は、ちがうはず！
まわりのお友達と、いっしょに見つけたかな？
横浜市内ならどこでもいる生き物もっているよ！

こども「いきいき」生き物調査 2014

教えて！あなたが見つけた生き物たち

横浜市内には、生き物がたくさん見られる場所と、あまり見られない場所があります。また、同じ場所でも今と昔では住んでいる生き物が変わってしまっていることもあります。そこで、どのような生き物がどのような場所にいるのか、みなさん！人ひとりが「生き物調査員」になって調査して、その結果を教えてください。

◆調査の方法
うららの生き物について、みなさんがこの1年間（2013年9月1日～2014年8月31日）に、家や学校の近く（おおよそ学区内）ですがたを見たり、鳴き声を聞いたりしたものに○をつけて先生に提出してください。

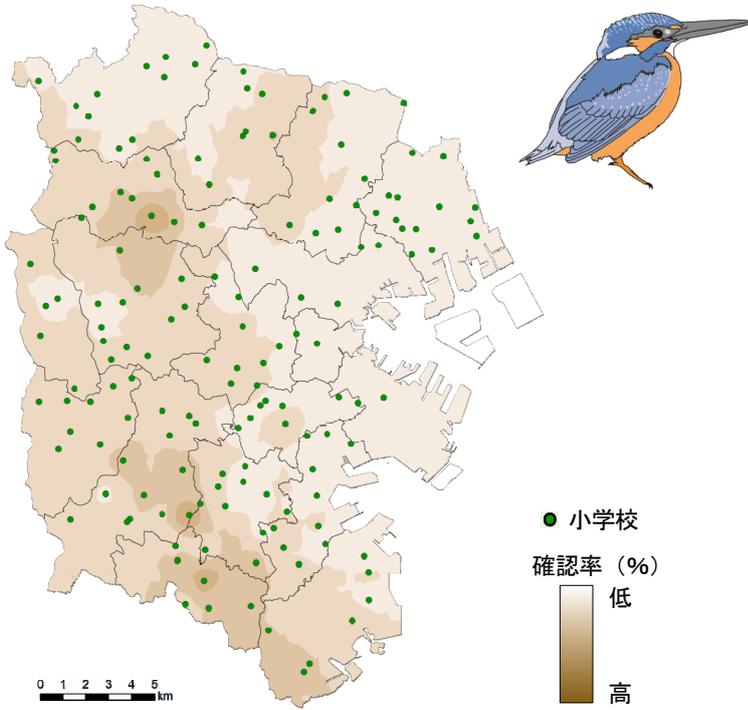
秋：9～11月 冬：12～2月
春：3～5月 夏：6～8月

◆調べるのは、あなた！
右の地図は、26～27年前にノコギリクワガタがいたところ。調べるのはその時のお小・中学生です。横浜市の多くのところで、ノコギリクワガタが見つかりました。今はどうでしょうか？
調べるのは、あなたです！

◆注意してほしいこと
※生き物を探すときは勝手に他人の庭や危ないところに入らないようにしましょう。
※生き物探しにむちゅうりになって、けがをしないように気をつけましょう。

1987-88年 2014年

配布した生き物調査票



【カワセミ：市全体の確認率 22%】

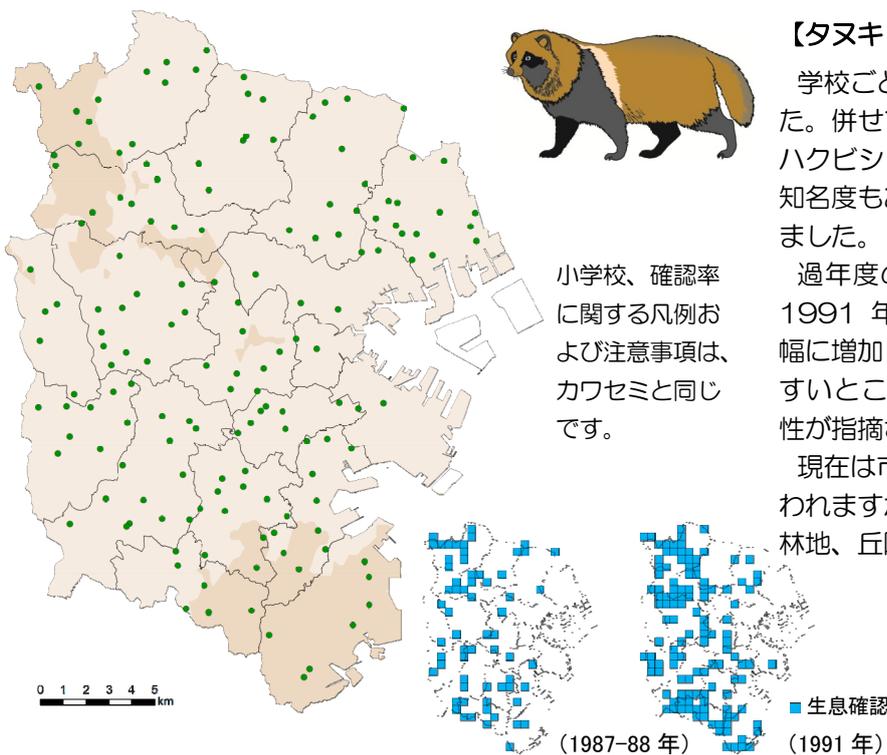
学校ごとの確認率は 1%から 69%でした。区ごとに比較しても、栄区や緑区では 30%を超えたのに対し、神奈川区や西区では 15%を下回り、地域差が大きかったです。

確認率の高い地域は、緑の 10 大拠点のうち、特に「三保・新治」、「舞岡・野庭」や「円海山周辺」などと一致するようで、河川の源・上流域や池で見られることが多いようです。

カワセミは近年、都市で増加傾向にあると言われていています。清流にすむ美しい鳥として有名ですが、過去の調査時は見かける頻度が低く、調査対象とはなりえませんでした。

今回、地域差はあるものの、全体で 5 人に 1 人以上が「確認した」と回答しており、今後の変化が注目されます。

注) 色の濃淡は、小学校ごとの確認率をもとに統計的に計算、作図したものです。一部のふ頭などは解析対象外としました。



【タヌキ：市全体の確認率 18%】

学校ごとの確認率は 0%から 49%でした。併せて調査したアライグマ (6%)、ハクビシン (8%) 同様、夜行性ですが、知名度もあり、確認率は相対的に高くなりました。

過年度の調査では、1987-88 年より 1991 年の方が確認されたメッシュが大幅に増加しており、タヌキが人目につきやすいところに出てくるようになった可能性が指摘されています。

現在は市内広域に生息しているものと思われるが、やはり確認率が高いのは、樹林地、丘陵地のような地域です。

小学校、確認率に関する凡例および注意事項は、カワセミと同じです。

6 その他

結果の詳細は、横浜市環境科学研究所 Web ページをご覧ください。

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/mamoru/kenkyu/data/forest/ikiiki.html>

学校ごとの確認率は観察場所へのアクセスのしやすさなど、さまざまな要因により変動し、必ずしも生き物の生息密度を表すものではありません。調査は長期的な視点での解析・考察が重要であり、来年度以降も対象とする生き物の種類を変えながら継続実施する予定です。

お問合せ先
環境創造局環境科学研究所 担当課長 清野 昌樹 Tel 045-752-2605